

2020年9月1日 株式会社三省堂

辞書の三省堂、「今年の新語2020」の一般公募を開始！

読者の皆様と、辞書を編む人の英知を結集し、「今年の新語2020」ベスト10を選びます。



募集締め切り 11/11 (水)

あなたの新語を投稿して 図書カードNEXT ネットギフト

1,000円分を当てよう！

三省堂 辞書を編む人が選ぶ
「今年の新語 2020」

株式会社 三省堂(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:北口克彦)は、「三省堂 辞書を編む人が選ぶ『今年の新語2020』」を実施し、その候補を9月1日(火)より募集いたします。読者の皆様と、三省堂の辞書を編む人の英知を結集し、今年を代表・象徴する言葉で、今後の辞書に採録されてもおかしくない言葉を選び、後世に遺します。選ばれたベスト10の言葉には、国語辞典としての言葉の解説(語釈)を付し、選考発表会(日時は後日発表)にて発表する予定です。

①言葉(新語)を公募します。

2020年に「よく見た」「よく聞いた」言葉をご応募ください。Webの応募フォームまたはTwitterによる投稿をお待ちしております。どなた様でも、何度ご投稿いただいてもかまいません。

②辞書の専門家が選び、語釈を付します。

辞書を編む専門家が選考委員となり、公平・公正な観点から「今年の新語2020」ベスト10を選定し、国語辞典としての言葉の解説(語釈)を付します。

③選考発表会でベスト10を発表します。

選考発表会(日時は後日発表)にてベスト10を発表いたします。選考結果は本ウェブサイトでも公表し、応募者の方々に抽選でプレゼントをお贈りします。 ※新型コロナウイルス感染状況により、選考発表会をオンラインで実施する可能性があります。

詳しくは、下記の「今年の新語2020」特設サイトをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2020/>



「今年の新語」とは……

この2020年を代表する言葉(日本語)で、今後の辞書に掲載されてもおかしくないものです。候補となるのは――

●「今年特に広まった」と感じられる言葉。今年誕生したかどうかは問いません。

≪昨年の例≫ペイ、サブスク、電凸

●自分自身や周りの人が、ふだんの会話等でよく使うようになった言葉。

≪昨年の例≫反社、カスハラ、置き配

●流行語や時事用語、新しい文物でもかまいません。

≪昨年の例≫あおり運転、垂直避難、ASMR

過去の選考結果と選評は下記ページをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2020/archive/>



三省堂 辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2020」 企画概要

- 実施概要:**三省堂が2020年を代表する新語を募集します。応募いただいた新語などから選考委員が厳正に選考の上、「今年の新語」ベスト10を選出し、国語辞典としての言葉の解説(語釈)を付けて発表します。
- 募集期間:**2020年9月1日(火)~11月11日(水)
- 応募方法:**「今年の新語2020」特設サイト(<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2020/>)の応募フォームもしくはTwitterにて投稿してください。
- 選考方法:**当社刊行の4つの国語辞書『新明解国語辞典』『三省堂現代新国語辞典』『三省堂国語辞典』『大辞林』を対象に、編集委員会の先生2名と編集部から構成される「今年の新語2020選考委員会」が公平・公正な観点から厳正に選考します。
- 選考結果の発表:**選考発表会(日時は後日発表)で「今年の新語2020」ベスト10を発表します。また、選考発表会終了後、「今年の新語2020」特設サイトに選考結果を掲載します。
- 賞品:**期間中に特設サイトの応募フォームもしくはTwitterにてご投稿いただいた方の中から、抽選で50名様に図書カード1,000円分をプレゼントします。

三省堂 辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2020」 選考委員のご紹介

小野 正弘

『三省堂現代新国語辞典』編集委員

1958年、岩手県一関市生まれ。東北大学大学院文学研究科国語学専攻所要単位取得済中途退学。専門は国語史(語彙・文字・意味)。現在、明治大学文学部教授、日本語学会副会長、日本近代語研究会会長。『三省堂現代新国語辞典』編集主幹。編著に『日本語オノマトペ辞典』(小学館)、共同編集に『論究日本近代語』(勉誠出版)、著書に『オノマトペ 擬音語擬態語の世界』(角川文庫)、『くらべてわかるオノマトペ』(東洋館出版)など。

現代文・評論文を読み解くための『三省堂現代新国語辞典 第六版』

本書に関する詳しい内容は下記Webページをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd14063>



飯間 浩明

『三省堂国語辞典』編集委員

1967年、香川県高松市生まれ。早稲田大学文学研究科博士課程単位取得。NHK Eテレ「使える! 伝わる にほんご」講師など、日本語教育番組にも携わる。著書に『辞書を編む』『小説の言葉尻をとらえてみた』(以上、光文社新書)、『三省堂国語辞典のひみつ』(三省堂)、『国語辞典のゆくえ』『つまずきやすい日本語』(以上、NHK出版)、『ことばハンター』(ポプラ社)など。

現代の生きた日本語がわかる『三省堂国語辞典 第七版』

本書に関する詳しい内容は下記Webページをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd13926>



瀧本 多加志

三省堂 常務取締役出版局長

山本 康一

三省堂 辞書出版部長・大辞林編集部編集長

三省堂 新明解国語辞典編集部

ことばの本質をとらえる『新明解国語辞典 第八版』

9年ぶりの全面改訂版、11月19日(木)全国一斉発売 (一部地域を除く)



日本でいちばん売れている* 小型国語辞典『新明解国語辞典』の9年ぶりの全面改訂版。新語・新項目を約1500語増補し、収録項目数約79,000。当初からの特徴である、言葉の本質をとらえた鋭い語釈を今回の改訂でも中核に据え、新しい方針によるアクセント、漢字表記・文法欄の更なる充実、数字の読み方など、最新の研究に基づく情報を提示。* 『明解国語辞典』刊行から『新明解国語辞典 第七版』までの累計。三省堂調べ

公式Twitterアカウント(@shinmeikoku)で改訂内容や言葉に関する話題を発信しています。第八版のプレスリリースもあわせてご覧ください▶▶



本書に関する詳しい内容は下記Webページをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd13078>

本格派国語辞典の最高峰『大辞林 第四版』

本書に関する詳しい内容は下記Webページをご覧ください。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd13906>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社三省堂 営業企画部 営業企画課

Tel: 03-3230-9412(営業) E-mail: www-info@sanseido-publ.co.jp